

「読書の絶対量」を増やし、「読解力」を身に着けよう

— 「読書の絶対量」の増加は「学力向上」の第一条件—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q : 「読書の絶対量」を増やすとは何ですか。

A : (林明夫 : 以下省略)

- (1) 読書とは、本や新聞、雑誌など、文字、特に活字を読むことです。
- (2) 「読書の絶対量」を増やすとは、本や新聞、雑誌などに載っている文字・活字を読む絶対量を確実に増やすことです。
- (3) 例えば、本を読むなら、1年に1冊よりは2冊、1か月に1冊よりは2冊、1週間に1冊よりは2冊と、冊数を増やせば増やすほど「読解力」が身に着きます。
- (4) 新聞を読むなら、1週間に1回読むよりは、毎日読むほうが「読解力」が身に着きます。新聞のTV欄だけよりは、一面からなめるように読むほうが「読解力」が身に着きます。
- (5) 雑誌も月に1冊よりは2冊、週に1冊よりは2冊読むほうが「読解力」が身に着きます。1つの記事を読むよりは、全ページを通して読むほうが「読解力」が身に着きます。

Q : 「読解力」とは何ですか。

A : 「読解力」とは、本や新聞、雑誌などに書かれている文字・活字がどのような内容かを「読み解く力」です。書いてある内容が、ああこれはこのようなことかとよくわかる、よく「理解」できる力といえます。

Q : 「読書の絶対量」を増やせば増やすほど、「読解力」は身に着くのですか。

A : (1) その通りです。

(2) ただし、条件が2つあります。

(3) 1つ目の条件は、「質のよい本や新聞、雑誌を読むこと」です。世の中には質のよい本や新聞、雑誌もあれば、必ずしもそうではないものもあります。せっかく自分の人生の大切な時間を用いて読むのなら、質の高い本や新聞、雑誌を自分の力で選んで読むことをお勧めします。

(4) 一番のお勧めは、学校の教科書で紹介されている本や、図書館の本を読むことです。新聞や雑誌も、家庭で購読しているものや、図書館のものを読むことです。

(5) 家に置いてある本、学校や開倫塾の先生方が勧めてくれる本も読むに値すると思います。

(6) もう 1 つの条件は、「本や新聞、雑誌は腰を落ち着けてゆっくりと読むこと」です。

(7) 1 つ 1 つの文字・活字をていねいに、ていねいにじっくりと読み込めば読み込むほど、そこに何が書いてあるかがよくわかります。よく「理解」できます。「読解力」も身に着きます。

(8) このように質の高い本や新聞、雑誌を大量に時間をかけてじっくりと読むと、「読解力」が身に着きます。

* 保護者の皆様にはお願いです。お子様が手に取れるところに質の高い本や雑誌をたくさん置いてあげてください。辞書や百科事典、年表や地図帳も置いてあげてください。情報の宝庫である新聞も御家庭で是非、御購読し、お子様にも毎日読ませてあげてください。

Q : 本や新聞、雑誌を読むときにしたほうがよいことはありますか。

A : (1) あります。たくさんあります。

(2) 読んでいて「わからない語句」があったら、「気持ちが悪い」と思い、躊躇(ちゅうちょ)しないで、つまり、ためらうことなく、辞書や用語集、百科事典などで調べることです。「わからない語句」をそのままにして次の文章に進まないことです。このことを自分自身の大切な「習慣」にしましょう。

(3) 調べたことは、「意味調べノート」に書き写すこと。書き写した内容はその場で覚えてしまうことも、自分自身の大切な「習慣」にしましょう。

(4) 「ことばは力」です。「ことばの数 は 力」です。自分はその意味を知り、身に着けていることばは力になります。身に着けていることばの数が多ければ多いほど、「読解力」が増します。

(5) 英語でも同じです。意味をよく知っていて、その用い方を身に着けている英単語や熟語の数が多ければ多いほど、文章を読んでも何が書いてあるかよくわかります。読んでわかることは聞いてもわかるのが普通ですので、ことばの多さはリスニングにも役に立ちます。ことばの数が多ければ、伝えるべきことを書き、話すこともできます。

(6) 継続は力です。1 日に 10 のことばを辞書で調べ、その意味をノートに書き写して確実に覚えると、1 年間で 3650 語、3 年間で 1 万語を身に着けることができます。

(7) どうしたら辞書などで調べたことばのすべてを忘れることなく身に着けることができるか。一番確実な方法は、「意味調べノート」をいつも 1 ページ目から声を出して読む、つまり「音読」することです。

Q : 最後に一言どうぞ。

A : (1) 「書き抜き読書ノート」を作ることをお勧めします。「書き抜き読書ノート」とは、本を読んでいて気に入った文章があったら、筆者名や作品名、出版社名やページ、日付とともに書き写しておくためのノートです。

(2) 「スクラップブック」を作ることもお勧めです。「スクラップブック」とは、気に入った新聞記事をハサミやカッターで切り抜き、のりやテープで貼り付けておくノートです。新聞名や日付はもちろん、その記事を読んで考えたことなどを自由に書き込んでおきましょう。

(3) 家庭の新聞を切り抜くときには、必ず保護者の許可を得ること。また、図書館の新聞は学校や公共のもので、絶対に切り抜いてはいけません。どうしてもその記事を手にしたければ、コピーの申請をし、料金を支払ってコピーして頂いてください。

(4) 自分で作った「書き抜き読書ノート」と「スクラップブック」は1ページ目から何回も何回も読み返しましょう。必ず皆様の心の奥に大切なものとして残り、生きる上での心の支えになります。皆様の「人格の基礎」の一部にもなります。

(5) このような形で「読書の絶対量」が増えれば増えるほど、「読解力」が確実に身に着きます。「読解力」が身に着けば、学校の教科書・教材・問題集・プリント、定期試験、検定試験、模擬試験、入学試験などの試験の問題の内容がよく「理解」でき、速いスピードで読めますので、学校でよい成績を取ることができます。3大検定にも合格します。模擬試験や入学試験でもよい点数が取れ、希望校合格を果たすことができます。

(6) 私が強く言いたいのは、来年1月以降に受験を控えた受験生ほど、本や新聞、雑誌を毎日一定時間以上、最低でも1時間はじっくりと読み込み、「読書の絶対量」を増やす取り組みをして頂きたいということです。これが不足しているといくら教科の学習をしても成績はある一定のところまでしか伸びない、最後の急激な伸びを決めるのは「読書の絶対量」ということを肝に銘じて、この夏を過ごしてください。

(7) 私は、慶應義塾大学法学部法律学科の入学試験当日の朝まで、受験勉強と同じ時間だけ岩波文庫や岩波新書、朝日新聞、雑誌「世界」を読み続けていました。おかげで入学試験の問題はすべてよく「理解」できたためか、間違った解答をあまり書くことなく、合格を確信して入学試験を終えることができました。御参考までに。

(8) 夏休みから秋・冬にかけては、「読書の絶対量」を増やす絶好の時期です。学校の教科書に出ている文章で皆様の心に響くものがあつたら、その作品の全文やその作者の他の作品を図書館で探してどんどん読んでください。時間をつくって、その作家の文学館やゆかりの地を訪問してみましよう。私は、樋口一葉や正岡子規が好きなので、東京にある「一葉記念館」や「子規庵」を時々訪れています。

— 2015年6月24日記 —

(宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授)

(作新学院大学 客員教授)